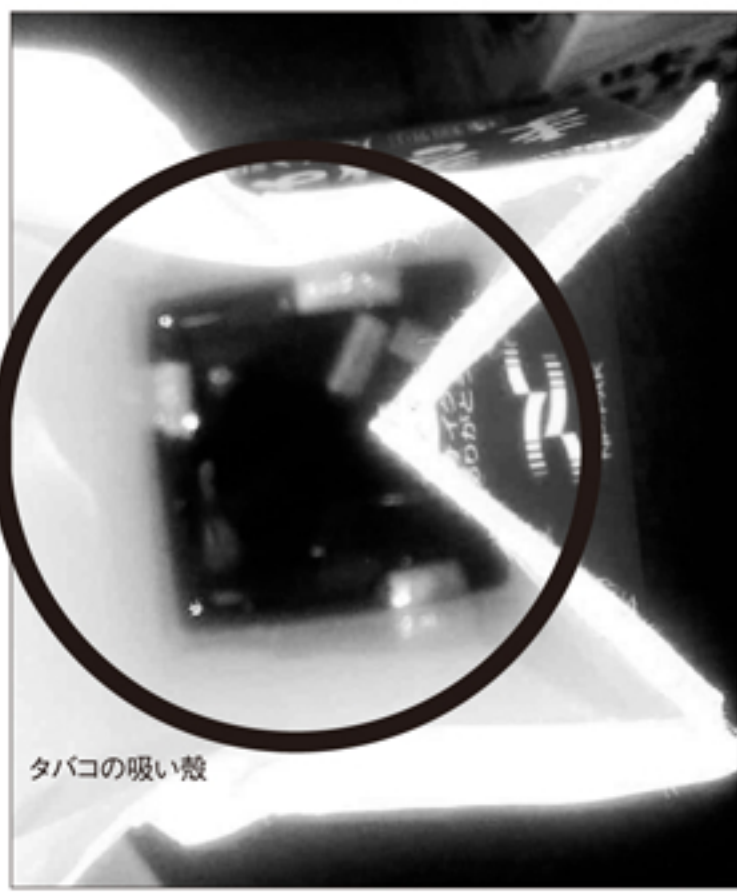


公共施設内で市幹部が喫煙？ カルピス紙パックに吸殻！

「タバコは所定の場所」が守られないのか!!

禁煙になっているはずの公共施設で、幹部職員、管理者が指定場所以外でタバコを吸っているという事実が判明した。吸ってはいけない場所、吸殻がカルピス紙パックの中に大量に捨てられており、その写真も入手した。

部屋でこっそり吸うとは！
過去にボヤ騒ぎがあった!?



タバコの吸い殻



紙パックのとなりのタバコ

市民から、公共施設内の指定場所でないところ、喫煙している市の幹部が「喫煙情報を入れた」という情報が入った。吸殻は、いわゆる〇〇室という、幹部の部屋である。本人は「喫煙していない」と思っているが、喫煙者でないものは煙の

がやらか不明だが、過去にもゴミ箱から煙があがるボヤ騒ぎがあったと聞いている。重病人がいる病院などで火事が起これば、どんな悲惨なことになるだろう！喫煙を責めているのではない。「喫煙者は決められた場所でタバコを吸う」という、当たり前のことが守られていないのが問題なのだ。特に、市の管理者、幹部という、市をひっぱっている立場の人間がやるべきことではない。

「広報かしわら特集号」に、疑問の声が上がっている。「広報かしわら特集号」に掲載されたお店に偏りがあるのではないかと一部では不満の声が。号は、カラー刷りで柏原市民の3万1000世帯へ全戸配布された。発行には結構な金額が費やされたと推察されるが、2回分は国からの交付金が出されたと聞いている。28年度も、2回発行する予定と聞いている。経費は、本市が賄うと聞いているが、市の財政に余裕がない昨今、消耗品費はできるだけカットするのが鉄則ではないのか。必要以外の経費削減をはかり、もともと大事な「全市民の安全を守るための庁舎建て替え」などに予算をつぎ込むべきである。そして、掲載されている業者や店の選定に、一部市民から「不公平で掲載の基準がない」と疑問視する声も相次いだ。何ら説明もなしに、一定の店舗が選ばれ



行政がフォローするのは大切なことだが、商店の活性化はもとと根本的に考えるべきであり、本場の地方創生は、住民自らが立ち上がることで。それに対して市はもともと適切に支援

すること、それが大事なのではないか。

他市から、不要な技術アドバイザー？ 市長の知人関連か？

先日、市の封筒で内部告発のような書面が届きました！
何の参考にもならないアドバイスで、一回に5万円を支払っている？

現在、柏原市上下水道部では、一回5万円、月1回、技術アドバイザーと呼ばれる技術支援を受けているが、一部から、「何の役にも立たない」と噂されている。そして、その人物は、「市長の昔からの友人」という理由で選ばれているという内容であった。濱浦議員が、市に問いたですと市からの回答は、非常勤嘱託職員として技術アドバイザーを雇用している。しかし、嘱託料は、一回15000円であり、仕事内容は、素晴らしく役に立っていますとの回答があった。水は、市民にとって命である。外部から技術者



財政難なのに「広報かしわら特集号」発行